



新 毎 日 新 聞

号 外

新たながん治療に貢献

免疫のブレーキ役発見

スウェーデンのカロリンスカ研究所は1日、2018年のノーベル医学生理学賞を京都大学等研究所の本庶佑(ほんじょ)特別教授(76)と米テキサス大のジェームズ・アリソン教授の2氏に授与すると発表した。本庶氏は免疫の働きにブレーキをかけるたんぱく質「PD-1」を発見し、このブレーキを取り除くことでがん細胞を攻撃する新しいタイプの「がん免疫療法」の開発に結びつけた功績が評価された。

日本からの受賞は2年ぶり26人目。医学生理学賞は5人目。授賞式は12月10日にストックホルムであり、賞金900万スウェーデン圀(約1億1500万円)が2氏に贈られる。

医学生理学賞5人目

本庶氏らの研究グループは1992年、免疫の司令塔を担うリンパ球「T細胞」で働く「PD-1」遺伝子を発見。PD-1が免疫反応のブレーキ役に相当することが分かり、ブレーキを外せば免疫力が高まってがん治療に応用できるのではないかと考えた。

その後、がん治療薬の開発が進み、小野薬品工業(大阪市)が14年9月、PD-1の抗体医薬「オプジーボ」(一般名ニボルマブ)を発売した。世界各地の製薬会社がよく似たメカニズムのがん治療薬の開発に乗り出しており、新たな治療法としての普及が期待される。【鳥井真平】



ノーベル医学生理学賞に決まった本庶佑氏。小松雄介撮影

ほんじょ・たすく 1942年、京都市生まれ。60年に京都大医学部に入学後、学部在学中から、日本の生化学のパイオニア的存在だった早石修教授(故人)の研究室に出入りし、門下生となる。71年に同大学院を修了。米国留学などを経て79年、37歳で大阪大教授に就任。84年に京大に移り、クラススイッチやPD-1などの免疫分野の研究で大きな成果を上げる。2005年に同大名誉教授、特任教授。17年5月から現職。神戸市の神戸医療産業都市推進機構理事長も務める。朝日賞(82年)、ベルツ賞(85年)、ベーリング・北里賞(92年)、ロベルト・コッホ賞(12年)、京都賞(16年)など受賞多数。14年には、東洋のノーベル賞と呼ばれる台湾の「唐獎」を受賞した。00年に文化功労者に選ばれ、13年に文化勲章を受章した。

購読お申し込み

毎日新聞のニュースサイト <https://mainichi.jp/>

専用フリーダイヤル

ヨムハマニチ 0120-468012